

<司令官ケネス・メイナー大佐の2021年1月24日のビデオメッセージ（要約）>

創世記 26:25 に「イサクは、そこに祭壇を築き、主の御名を呼んで礼拝した」とあります。創世記ではアブラハムの生涯が詳しく書かれていますし、イサクの息子のヤコブについては10章もの分量があてられています。アブラハムの子イサクについては2章しかありません。しかし、ユダヤ教のシナゴークでもキリスト教会でも祝祷では「アブラハム、イサク、ヤコブの神、主よ」とイサクの名前が言及されます。アブラハムと妻のサラの間には子どもがなく、そのことを長年祈った結果、イサクが与えられました。イサクは約束された子どもでした。しかし、神が示された道を歩むかどうかは、イサクが自分で決断しなければなりません。もちろん、イサクは肉の父であるアブラハムから感化を受けていましたが、天の父なる神に従って生きることについては、イサク自身の決断が必要だったのです。イサクにとって祭壇を築くことは、過去の恐ろしい記憶を呼び覚ますことだったかもしれません。というのは、かつて神はアブラハムに、イサクをモリヤの山で焼き尽くす犠牲としてささげるようにお命じになったことがあったからです。結果としてイサクは死にまいませんでしたが、その時の記憶をイサクは後の生涯で何度も思い出したことでしょう。みなさんの中にはご両親がクリスチャンだという人もいるでしょう。しかし、あなたが神に従って生きるかどうかは、あなた自身で決断をしなければなりません。その意味で、あなたもイサクと同じように、あなた自身の祭壇を築いて、自分の信仰を確立しなければならないのです。パウロはローマ12章で、自分自身を聖なるささげものとして献げなさい、と勧めています。ご両親がクリスチャンではなかったという人には、いま、あなたの心の中に祭壇を築いて、「神様、わたしのすべてをあなたにお献げしますので、聖霊でわたしを満たしてください」という祈りをささげていただきたいと思います。あなたは今、あなたの心の中に、あなたの祭壇を築いて、あなた自身を神にささげ、神を礼拝することができるのです。